

認知症初期集中支援チームモデル事業について

平成27年度 第1回大阪市地域包括支援センター運営協議会

平成27年6月

大阪市 福祉局 高齢福祉課

大阪市認知症初期集中支援チームモデル事業報告書【概要版】 ～ 事業概要 ～

事業目的

「認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会」を実現するため、適切な支援につながっていない認知症初期の方を早期発見・早期診断・早期支援に結び付けこれまでの「ケアの流れ」を変えることを目標とする。

この目標を達成するため、認知症初期集中支援チームを地域包括支援センターに配置し、各区（日常生活圏域）において構築してきた認知症の方を支援するネットワークを活用し、本事業の広報・普及啓発及び初期集中支援業務等を実施することによって、認知症初期の方を適切な支援機関に結び付ける取り組みを進める。

この取り組みをもって、ネットワークの早期発見・早期診断・早期支援機能が自律的に機能し、認知症の方を支援する地域の体制を構築することを目的とする。

本市での位置付け

本市においては、ひとり暮らし高齢者が非常に多く、また高齢者のみの世帯も増加していることから、症状が重症化し対応が困難な状況になってはじめて認知症に気づくというケースも見受けられる。そのため、認知症の可能性がありながらもかかりつけ医がなく、適切な医療や介護福祉サービス等につながっていない方に対し、医療機関の受診や鑑別診断の勧奨などを集中的に支援する「認知症初期集中支援チーム」を設置し、早期発見・早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築することとした。

事業実施圏域については、医療との連携が効果的に図られることが期待される区単位とし、認知症対策に関する地域資源、基盤が充実し連携が図られていることなどから、東淀川区を実施区とした。

事業概要

【実施期間】平成26年7月1日～平成27年3月31日
 【事業実施区】東淀川区
 【事業受託法人】東淀川区社会福祉協議会（公募により選定）
 【チーム設置場所】東淀川区地域包括支援センター
 【支援ケース数】50ケース以上
 【チーム体制】チームの愛称：ほほえみオレンジチーム
 ・医療職：看護師1名（常勤）、保健師1名（非常勤）
 ・介護職：介護福祉士・主任介護支援専門員1名（常勤）
 ・専門医：大阪市立弘済院附属病院から派遣

支援対象者

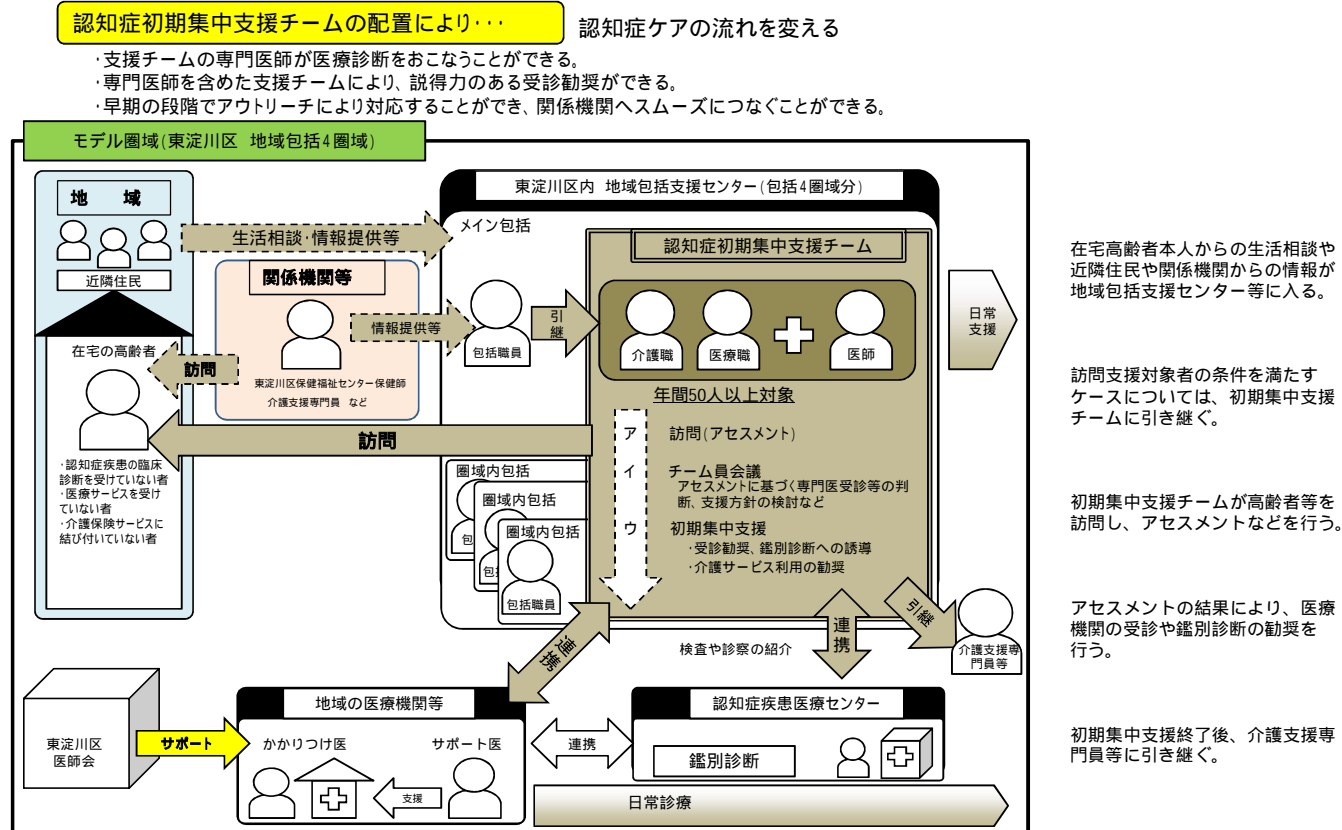
- ・認知症疾患の臨床診断を受けていない者
- ・継続的な医療サービスを受けていない者
- ・適切な介護保険サービスに結び付いていない者 など

平成25年10月現在

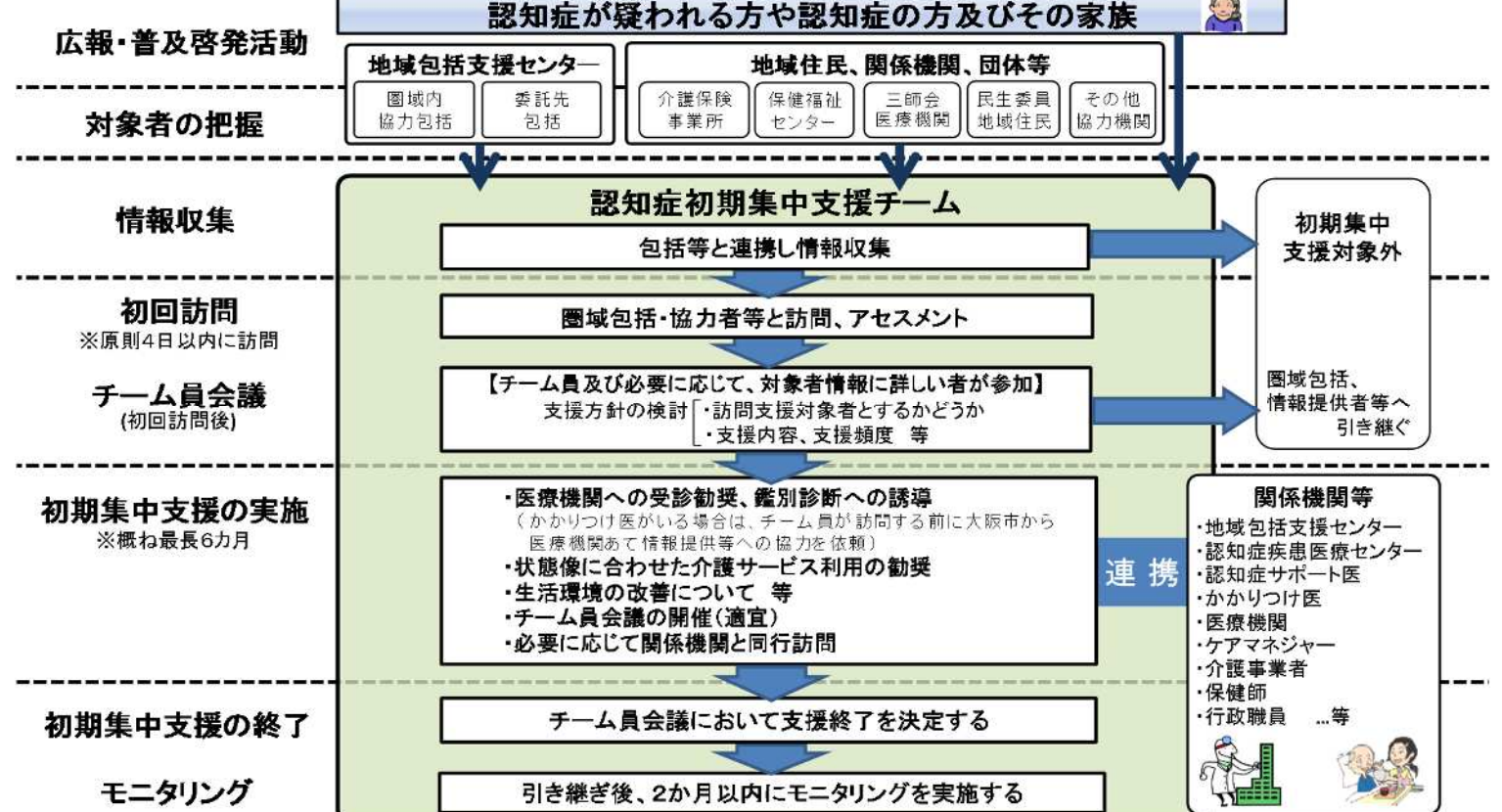
	大阪市	東淀川区
人口	2,683,487人	176,450人
高齢者人口	643,232人	38,786人
高齢化率	24%	22%
要介護等認定者数	152,718人	9,115人
認知症高齢者等の日常生活自立度 以上(平成25年11月末時点)	62,100人	2,312人
地域包括支援センター設置数	66か所	4か所

東淀川区の認知症高齢者等の数は「在宅」のみを集計したものと見られる。

事業概念図



業務の流れ



事業推進のための会議体



初期集中支援の一事例

(家族の気づきから、鑑別診断、介護や地域資源利用につながったケース)

相談ルート: 隣接市に住む長女が、母の自宅訪問時に区広報誌に掲載されていたチームの情報を見て電話で相談。

相談内容: ひとり暮らしの母のものが忘れが急に増え、探し物をするのが多く、感情的になるなど情緒不安定になってきている。通院ができておらず介護サービスも利用していない。近所に友人もいない。長男が心配し、毎日のように見守りのため訪問している。地域の高齢者の集まりに参加して友達ができ、在宅での暮らしを続けられるようにしたい。

初回面談(長女が来所): 数年前に夫が亡くなりひとり暮らしとなった頃から落ち込みがちになり、もの忘れが目立つようになったため病院を受診したところ、うつ病と診断され薬も処方されたが、その後、継続して受診できていない。長男が訪問した際の食事作りが本人の日課となっており、家事はできていない。長男は母が認知症の疑いがあることを受け入れたくない様子で、今のままでも大丈夫だと思っており、介護サービス等の利用も消極的である。しかし長男も見守りのストレスから、母に対して声を荒げてしまうことがある。

支援の経過: 長男夫婦、長女が同席のもと本人宅をチーム員が訪問した。本人は穏やかに話されるが、夫が亡くなった年を思い出せず家族の顔を見て答えを求めたり、以前受診していた主治医の名前が答えられないなど、記憶障害があると考えられた。(地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメントシートDASC-21は36点(1))

チーム員会議で専門医を含めて支援方針を検討。アセスメント結果から軽度認知症が疑われるため、認知症疾患医療センターでの鑑別診断を進めることとし、人との交流を増やすことと長男の介護負担軽減のため、介護保険を申請しデイサービス利用を勧めることとなる。

認知症疾患医療センターでの鑑別診断の結果、アルツハイマー型認知症と診断された。改訂長谷川式簡易知能評価スケールは13点(2)で認知症は高度と考えられた。継続的な医療受診を目的として地域のかかりつけ医を紹介し、長女が付き添い受診できるようになった。

デイサービスの利用と地域の集まりへの参加を促したところ前向きになったため、ケアマネジャーと契約し調整を進める。本人はデイサービスを気に入り週2回、さらに地域の会食サービスや喫茶も利用するようになり、楽しく過ごすようになった。長男も声を荒げることなく、見守りを続けている。

チーム員会議で認知症にかかる本人の状態像の変化、改善状況等を検討の上、適切な支援機関につながり安定的に在宅生活が継続できると判断し、関係した支援機関に専門医からのコメント等とあわせて引き継ぎ・報告をし、初期集中支援を終了した。

まとめ: 長男は一生懸命母の介護をしていたが認知症を病気として受け入れられず、医療受診を積極的に進められずにいた。長女は兄の疲れを感じ、早く何らかの支援を導入し状況を改善しようと考えていたが、隣接市在住で母の支援に関われないことへの遠慮があった。遠方在住などの事情がある中、チームのアウトリーチにより、本人をはじめ家族の負担が少ない方法で支援を進めることができた。また、第三者が介入することで兄妹間の意見調整ができ、鑑別診断や医療・介護・地域資源の利用につながり、在宅生活の基盤が確保できた。今後も危機的状態に陥る前に、本事例のようなチームの活用が期待される。

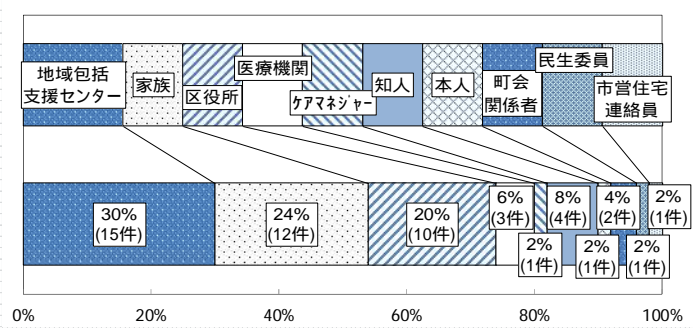
(1) 84点中、合計点が31点以上は「認知症の可能性あり」と判定する。
 (2) 30点中、合計点が20点以下は「認知症の可能性あり」と判定する。

本事例は、個人情報に配慮し主旨に沿った範囲で修正を加えた

大阪市認知症初期集中支援チームモデル事業 報告書【概要版】 ～ 実践結果のとりまとめ ～

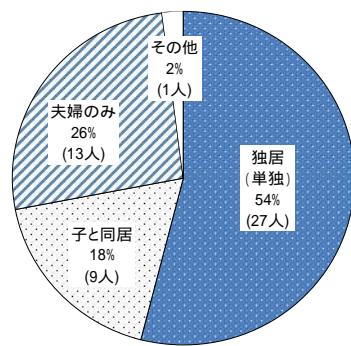
【実施状況グラフ】

相談・紹介経路 (N=50)



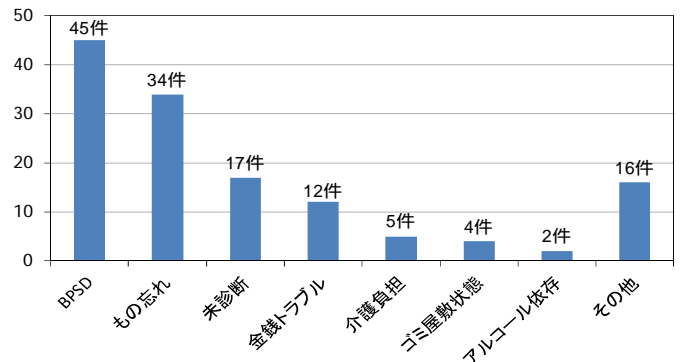
地域包括支援センターからの相談が最も多く30%を占める。(事業経過とともに、家族や医療機関、地域団体等からの相談が増加した)

世帯類型別 (N=50)



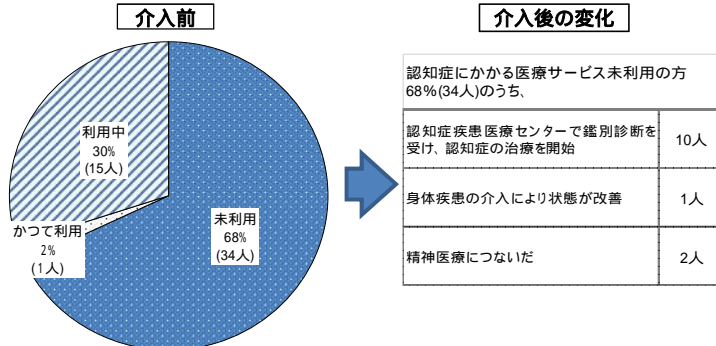
独居(単独)が27人(54%)と最も多く、続いて夫婦のみ13人(26%)で、併せて高齢者のみ世帯が40人(80%)を占め、平成22年国勢調査による大阪市高齢者世帯タイプの独居41%、夫婦のみ26%を上回る。

相談内容(困っていること、相談したいこと)(重複あり)



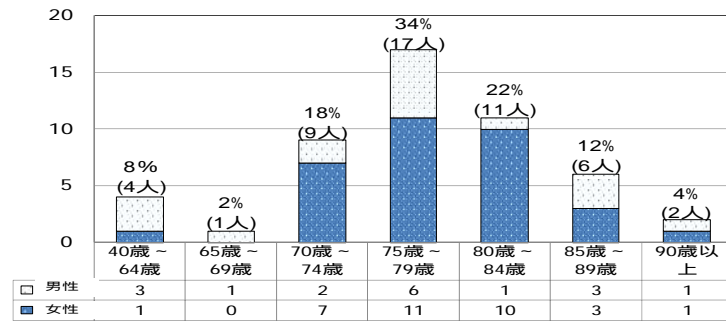
BPSD(認知症の心理・行動症状)が最も多く、もの忘れがそれに続き、認知症の症状そのものに関する相談が多い。

認知症に関わる医療サービスの状況 (N=50)



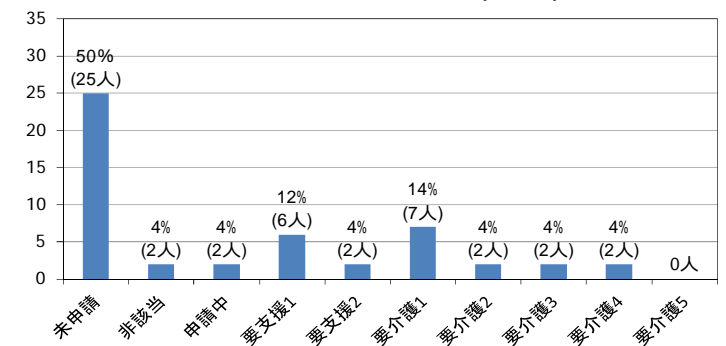
介入前は、34人(68%)が認知症に関わる医療サービスを受けていなかったが、介入により10人が専門医療機関で鑑別診断を受け、1人が身体疾患の治療で状態改善、2人は精神医療を受けた。

年齢階層別・性別 (N=50)



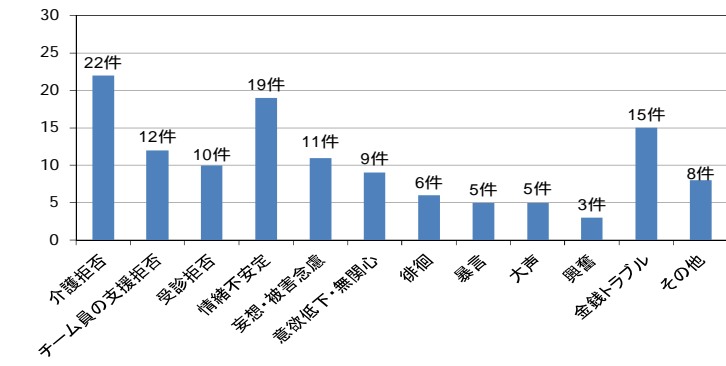
70歳代が全体の26人(52%)を占め、75～79歳が全体の17人(34%)で最も多い。70歳代以上は女性の割合が高い。

要介護度別 (N=50)



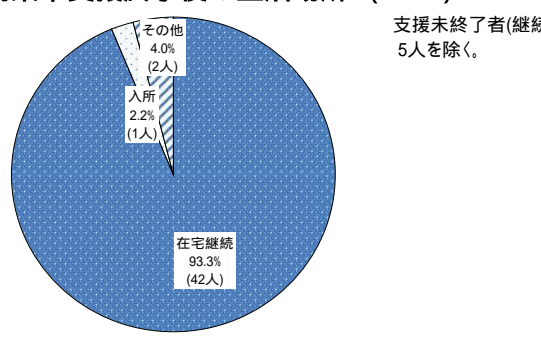
未申請25人(50%)、非該当2人(4%)と介護サービス未利用者が過半数を占めている。介護認定を受けている場合、介護度1が7人(14%)で最も多い。

初期集中支援介入時に確認されたBPSD等(重複あり)



拒否(介護拒否、支援拒否、受診拒否)が多い。

初期集中支援終了後の生活場所 (N=45)



初期集中支援の結果、42人(93.3%)が施設入所等に至らず在宅生活を継続できた。

【課題に対する検証・分析と考察】

(1) 潜在している対象者の把握のための効果的な広報・普及啓発のあり方

課題 地域住民や関係機関にチームの役割や機能について広報を行うとともに、効率的な対象者の把握につなげる必要がある。本市はひとり暮らし高齢者が多く、特に自治会、町内会に加入していない場合、地域情報が届きにくい。

実践を通じた分析・考察

地域の中で認知度や信頼度が高く、定着している区広報紙や回覧板等の情報媒体により、広報を行うことが効果的である。関係機関には、チームの取り組み実績等について丁寧な報告を行うことによって、本事業と連携するメリットを認識してもらい、チームが高度なスキルを備えた専門職集団であることを伝える工夫が必要である。地域住民の生活状況を把握している地域の町会長や民生委員等のキーパーソンに向けて共同した取り組みを働きかけ、チームの存在が地域で定着していくように進めて行く必要がある。ハイリスク高齢者への訪問活動に取組む区保健師との連携など、情報把握の仕組みを構築する必要がある。

(2) 支援のための関係機関との連携の仕組みづくり

課題 これまで各地域で築いてきたネットワークを活用し早期発見・早期診断・早期支援機能が自律的に機能する地域の体制を構築するため、チームが地域のネットワークの一員として有効な活動ができるかどうか課題である。

実践を通じた分析・考察

区内の認知症高齢者支援の関係者が集まる会議の場において事業周知や実施状況報告を行い、チームの役割について理解が深まったことにより、対象者情報の提供やかかりつけ医の紹介等の協力が得られたことから、事業開始当初より既存の地域のネットワークに参画し活用していくことが効果的・効率的である。早期発見・早期支援機能が自律的に機能する地域の体制には、チームと関係機関との間で顔の見える関係を構築することが有効である。そのためには、支援終了ケースの引き継ぎにおいて、サービス担当者会議や同行訪問等を行うなど、丁寧な個別ケース支援を積み重ねることが必要である。

(3) 訪問・支援拒否事例への対応について

課題 本人や家族からの同意を得た上で訪問を実施しているが、訪問・支援を拒否するケースがある。拒否の背景には、認知症の症状が原因となっている可能性も想定される。

実践を通じた分析・考察

支援拒否ケースの中には、生命の危機や虐待があり得る場合を想定しておく必要がある。支援拒否の理由等をアセスメントし適切な支援機関に引き継ぐ手法と仕組みを構築するため、実践を重ね検討していく必要がある。支援拒否ケースへの関わりは、非常に高いソーシャルワークのスキルが求められるため、支援に関わる人材育成が重要で、そのための研修システムの充実が必要である。

【今後の全市展開に向けて】

ア 本事業を推進していくため、市、区、地域レベルの会議の必要性

国の地域支援事業実施要綱に定められている会議として、関係機関・団体と一体的に事業を推進していくための合意が得られる場として規定されている市レベルの会議と、訪問支援対象者のアセスメント内容を総合的に確認し、支援方針・内容等の検討をおこなうチーム会議(地域レベル)がある。しかし、事業を円滑に推進していくためにはそれらの会議とともに、地域の関係機関との連携が不可欠であり、事業が地域で定着するまでの間は、進捗管理や地域の実情に応じた課題の抽出をおこないつつ事業を進めて行く必要があることから、区レベルでの関係者会議が有効であり、その実施が望ましい。

イ 人材の養成、質の確保

認知症初期の方へのアウトリーチの難しさ、さらに支援拒否ケースへの関わりやすさの困難さが指摘されており、こうした課題を克服するため、チーム員の養成や質の確保が必要である。国が必須としているチーム員養成研修に加え、初期集中支援におけるケアマネジメントやソーシャルワーク、地域連携のあり方のほか、弘済院が培ってきた認知症医療・介護の知識・技術なども活かし、体系的な専門的研修を実施しスキルアップを図る。

ウ 事業の質を向上させるための評価基準の設定

各受託法人(チーム)の取り組みの質及び水準を確保し、継続的により良い運営・活動につなげるため、事業運営体制と専門性を評価する基準を設定する必要がある。

エ 本市の状況(高齢者人口、事業実施地域・単位等)に応じたチーム設置単位

【ひとり暮らし高齢者に対する初期集中支援】

ひとり暮らし高齢者は、近隣住民等周囲による認知症の気づきが遅れ、地域で潜在化している可能性があることから、早期発見・早期診断・早期対応のためのアウトリーチを行う本事業の取り組みは有効である。「地域における要介護者の見守りネットワーク強化事業」の見守り相談室とも連携を図り、ひとり暮らし高齢者の状況を把握し、地域と協働で積極的にアウトリーチを行っていくなど地域づくりも併せて行って行く必要がある。ひとり暮らし高齢者本人との信頼関係をつくり、スムーズに支援につなげていくためにはチーム員の資質向上を図る必要がある。

【各日常生活圏域(区)で実施することの効果、意義】

本市では、日常生活圏域である区を基盤として認知症高齢者支援ネットワークの構築に段階的に取り組んできた。本事業は認知症の方を支援するネットワークの早期発見・早期支援・早期対応機能をより強固なものとする機能を有していることから、この築いてきた基盤を活かし、顔の見える関係の中で本事業を推進していくことが最も効果的・効率的である。